

---

「下部へ、下部へ…段々降りてゆく」よりほかない時代に  
**谷川雁の全体像をさらに開示し、その起爆力を共同で  
新たに感受する一日に！！** ——30年前の雁の肉声にも触れながら

---

主催：谷川雁研究会(雁研) 協賛：鈴木孝夫研究会(タカの会)/鷹揚の会

昨年6月末の雁研発足以来、ほぼ1年半。この間機関誌『雲よ』を第4号まで刊行し、まもなく第5号も産出の運びです。一方で、本年3月姉妹研究会として立ちあげた本会特別顧問である言語学者・鈴木孝夫先生そのものを研究するタカの会もめざましい活動を重ねて、機関誌『鈴木孝夫の世界—ことば・文化・自然』第1集をこの10月末、富山房インターナショナルより発刊することができました。

このように雁(研)とタカ(の会)の併立、並翔は、雁がかって大正闘争中に記した「ここに酒あり！」の趣きを醸し出しながら進展してきたのですが、目を世界に転じるとき現況はどうでしょうか？まさに「下部へ、下部へ」と崩落の度合いを強めるばかりとっていいでしょう。そうした中で、下降と崩落の時代を生きる新たな思想、新たな物語の震源地としての雁を見つめ直し、その起爆力を改めて感受していくことが求められています。

それは雁が終生願い、かつ実践的に追求していったように「根へ、根へ」の旅と重なっていく営みに他なりません。大きな縁の働きによって入手できた30年前の雁の肉声にも耳を傾けつつ、雁とともに「イメージから先に変れ！」を体感する一日としていきましょう。ぜひ奮ってご参集ください。

---

記

日 時：2010年11月21日(日) 午後2時15分～5時半(午後2時開場)

会 場：「サロンド富山房」(出版社「富山房」地下1階のカフェ) 千代田区神田・神保町

地下鉄半蔵門線、都営新宿線等「神保町」駅下車(A7出口) 徒歩3～4分。03-3291-8215

参加費：1500円(珈琲等飲み物代込み) \*当日会場にてお受けします。

参加者定員：45名(今回は、この規模で濃密な会をめざします) \*先着順です。

申込み：参加意思を下記研究会事務局まで、なるべく早めにメールか電話でお知らせください。

第二部：引き続き同一会場にて飲食付きで開催(5時45分～7時半。参加費3500円)

これへの参加意思の有無も事前にお知らせください。

【主なプログラム】

雁の肉声を聴く(その1)～雁流日本神話・ラボ版『国生み』をめぐる講演から

特別挨拶 「谷川雁さんとの不思議な巡りあわせ」 鈴木孝夫(慶應義塾大学名誉教授)

パネル討論：「今、改めて問う、雁の可能性と起爆力とは？」

討論者：米谷匡史(東京外国語大学教員) 佐藤泉(青山学院大学教員)

河谷史夫(元朝日新聞編集委員、論説委員) \*司会役：松本輝夫(雁研代表)

途中での発言者：とよだもとゆき(『村上春樹と小阪修平の1968年』著者)

内田聖子(作家、元ラボ・テューター。『谷川雁のめがね』著者) 他

雁の肉声を聴く(その2)～「私がテック＝ラボをやめざるをえなくなったのは…」

\*このまま一休みした後、第二部へ。飲食付きで、さらに一段とボルテージを上げていきます。

【連絡先】雁研事務局 代表：松本輝夫